

令和5年6月22日

南の風恩塚女子ジャパン特集号IV

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

Ⅲ号の続きです。

そのときも遅れて来た選手に、「ボールマンの攻撃に対する適切なポジションを取って」と伝えました。

————— 遅れてきてなおかつポジションが悪いと、アタックしようとしているボールマンが不利になります。しかし不利だと思われる状況でも適切なポジションを取ることで、ディフェンスが寄り切れずに、ボールマンが有利になるわけですね —————

恩塚ヘッド: そうです。でも多くの場合「今のシーンでは、私の動きは関係ない」と思っている選手が、どのカテゴリーでもいます。それをなくそうというのが、今年度の女子日本代表です。

よく「頑張る」とか「やり抜く」と言いますよね。何をやり抜くのかと言えば、私は「いいポジションを取り続けることをやり抜く」という感覚です。チームが勝つためにできることをやり抜くという行動を、より具体的に解像度を上げて考えたときに「ポジショニング力」に行き着きました。

————— それはディフェンスでも同様ですか? —————

恩塚ヘッド: もちろんです。ドライブに対するギャップポジションにしても、ヘルプのポジションにしても、すべては有利なポジションがあります。それを素早く的確にすることで有利な状態で守れます。

あるいは、パワーポジションを取った姿勢でシュートを打たれたらボックスアウトするし、相手がりバウンドに来なければ、ヘルプに出ていく位置を取ることもそうだし、そのときのスタンスやそこから素早く振り向く速ささえも、私は「ポジショニング」だと思っています。

————— 聞いていると、女子日本代表だからやるというよりも、育成年代を含めてすべてに共通するキーワードです —————

恩塚ヘッド: そうです。それを理解して実践できたら、バスケットがとても上手くなると思います。一部の国では、少なくともコート上の動きを見る限りやっています。

但し細かい話をしていくと、選手の頭がいっぱいになってしまうこともあります。昨年まではそうしたことを言葉で説明していましたが、「今は動きで説明」するようにしました。

体で覚えて、無意識でもできるところまで磨こうとしているのです。無意識に適切なスペースを取る。スポットを見つけて攻める。スポットを消して攻めさせないようにする。いいスタンスで動けるようにする。それらをやり抜けるのが日本の強さだと思いますし、今年はそれを追求していこうと考えています。

5月30日(火)～6月6日(火)のカナダ遠征におけるエキシビジョンゲームを前に、恩塚ヘッドがミーティングで語ったこと。以下恩塚ヘッドの話

「カナダという相手は、我々が課題としていることを試すのに絶好の相手だと思う。今までトレーニングしてきたことを出して、どれだけ試していくか、成長していくかだと思う。その一つのポイントから「闘争するっていうこと」。妨害がある中での闘い、相手は削ってくるし、その中で自分たちのやりたいことをしっかりやり切るし、相手のやりたいことをやらせないっていうことを意識しよう」